

モデルプログラムにおける個別活動について

※五十音順

あ

アクティブ・ラーニング

進 多 就

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、生徒の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。課題解決学習や体験学習、調査学習等のほかに、教室内でのグループ・ディスカッションやディベート、グループ・ワーク等の方法がある。

い

インターンシップ

進 多 就

就職や仕事への理解や関心を高めるため、生徒が事業所等の職場で働くことをとおして職業や仕事の実際について体験したり、働く人と接したりする就業体験のこと。体験先を自分で開拓する場合と学校が開拓する場合がある。

か

学習ガイダンス

進

各教科における学習目標や内容、学習方法等を知るとともに、探究心や知的好奇心に基づいた学習の重要性を理解するためのガイダンス。

か

家庭における進路計画

進 多

家庭等で、生徒と保護者が、将来の生き方や進路選択について共に考え、相互理解を図る活動。進学に必要な経費や生徒の将来設計について、保護者としての理解を深め、支援の在り方の確認等を行う。

け

研究活動

進

研究会やセミナー等のキャリアアップ活動やボランティア活動等、学校だけでは得られない知識や経験を得るための自主的な活動。自ら課題を設定して活動することで、思考力を高める。主に、放課後や長期休業を活用して活動する。

こ

後輩へのメッセージ

進 多 就

1・2年生を対象とした「卒業生との座談会」において、3年生の代表が、就職内定や大学等の合格を目指して取り組んだことや学習の工夫等を基に、下級生に、高校生活の過ごし方や卒業後のキャリアプラン等について伝える活動。

こ

個人研究

多

身の回りで起こっている諸問題からテーマを設定し、その解決策を考える。インターネットや新聞等のメディアからの情報収集だけでなく、実際に調査等を行う。モデルプログラムでは、冬休みの個人研究は夏休みの続編と位置付けている。

さ

3年生との座談会

進 多 就

高校卒業後の進路を決定する上で効果的な進路選択や勉強の方法、高校生活の過ごし方等3年生の実体験を踏まえた話を基に、3年生が1・2年生に対して話をする活動。1・2年生は、今後の進路選択に向けての具体的な方向性を学ぶことができる。

し

しごと密着体験

進 多 就

生徒が事業所の職場で働く大人に密着し、「仕事の内容」や「仕事に対する姿勢」、「職場の様子」等を観察することで、「働くこと」についての学びを深める観察型学習。

し

自己表現セミナー

多 就

志望動機や自己PR等自分の意見をうまく表現できるように、文章作成能力を養うワーク形式の講座。就職試験や大学受験等に対応できるよう作文や小論文模試、模擬面接等も行う。

し

社会生活・学生生活への接続セミナー 多 就

就職内定者やAO入試・指定校推薦等による進路先決定者を対象としたレポート課題。モデルプログラムでは、発表の場として、就職内定者は内定先事業所を、進学者は同じ分野を希望する在校生を想定している。

し

10年後の自分への手紙 進 多

高校3年間を振り返るとともに、自分自身の将来ビジョンや、それをどのように実現していくのか等、今後の自己の在り方生き方を考え、未来の自分に宛てた手紙を書く活動。

し

小・中学校への出前講座 多 就

高校生が小・中学校に出向き、日頃の学習成果を生かして行う出前講座。高校生が、小・中学校教員のサポートを行う形態から、講座の計画を自らが立てて行う形態まで、生徒の状況に合わせて展開する。

し

消費生活講座 多

進学や就職後に消費者トラブル等に巻き込まれないよう、トラブルを未然に防ぐ方法や日々の暮らしに役立つ身近な消費生活の問題に関する情報や知識を学ぶ講座。

し

進路・生き方・職業研究 進

インターシップや大学模擬体験授業、医療体験等、進路希望やそれぞれの課題に応じて行う活動。全ての生徒が、個人やグループで企画して参加する。

す

スキルアップ講座 就

長期休業を利用し、ボランティア活動や事業所での職業体験等を実施したり、様々な資格や検定等への挑戦を行ったりする自主的な研修。

た

探究活動 進

最近の時事問題のうち、興味・関心のある分野に関する評論に触れたり、講演会等をとおして、時事問題への理解を深めたりする活動。まとめの場では、1年間の学習をとおしての気づきや自分の変化等を発表する。

ち

地域連携学習 進 多 就

学校のみで完結する授業ではなく、地域の人材を講師等として招いたり、生徒が地域に出て学習したりする授業。学校と地域がつながりをより密接にして進めていく。

て

テーマ学習 多 就

自己の進路希望や興味のある分野をテーマとして研究し、その結果をレポートにまとめる学習。講座内や校内、地域の小学校等の校外で発表することで、他者との交流を図ることも目的の一つとしている。

て

デュアルシステム 就

実践的な職業知識や技術の向上と、勤労観・職業観の育成を目的として、学校での学習と事業所での実習を組み合わせる就労体験の仕組み。一年をとおして、授業での学びと事業所等での実習を交互に継続して行うことで、相乗効果をねらっている。

は

働くルール講座

多 就

三重県雇用経済部の発行する「働くルールブック」等を活用し、働く上での権利や義務のほか、働く人を守る社会のルール（法律や規範、常識等）を始め、労務上のトラブルへの対応方法を学ぶ講座。

ひ

ビジネスマナー講座

多 就

職場等で求められる、社会人として必要な挨拶や電話応対等のビジネスマナーの知識と基本動作、コミュニケーションスキル等を身に付ける講座。

ひ

表現力活用セミナー

進

表現力プログラムで身に付けた表現力を活用し、大学等の出願に必要な自己PR文の作成や、入学試験で行われる面接やグループ討議等に備えた模擬面接等を行うセミナー。3年間の経験や知識を用いて、自分の考えている将来像を様々な形態で発信できるようにする。

ひ

表現力プログラム

進

与えられた文章の内容を的確に理解し、グループ内で自分の言葉を用いて意見を述べる活動等をとおして言語表現力や論理的思考力の基礎を身に付けるための学習活動。

ま

学び合い活動

進

探究活動や研究活動のほか、授業等で行ってきた学び合い活動を基に、メンバー間のコミュニケーションをとおして、互いに学び高め合う、教科に関する主体的な学習活動。

ま

マネープラン講座

多 就

雇用形態による生涯賃金の違いや、生きる上で必要となる経費をはじめ、社会保険制度や税金、社会人として自分の収入で生活していくための金銭管理やお金との上手な付き合い方等、お金に関する基礎知識を学ぶ講座。

よ

ようこそ先輩

進 多 就

地域社会や大学等で活躍する卒業生に学校で話をしてもらうことで、生徒が、卒業生の仕事に対する思いや生き方を知るとともに、意見交流等の活動をとおして、人生の先輩をモデルに自己の在り方生き方を考える活動。講演会形式や座談会形式で実施される。

ら

ライフプラン

多 就

今後の生き方や在り方について考え、次の学年段階以降の学校生活における目標とその実現のための計画を立てたり、卒業後の中長期的な人生設計を行ったりする活動。

S

SPP (サイエンス・パートナーシップ・プログラム)

進

文部科学省の「次代を担う人材への理数教育の拡充」施策の一環として、高校と大学等の連携により生徒の科学技術、理科・数学に関する興味・関心と知的探究心を育成することを目的としたプログラムのこと。長期休業等を活用し、大学内外において探究活動等を行う。

S

SSH (スーパーサイエンスハイスクール)

進

将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する学校として文部科学省が指定した高校のこと。三重県が独自に指定するM i eSSHもある。これらの高校において、長期休業等を活用し、大学等で最先端技術の研究に触れたり、集中実習等を行ったりする。

プログラムの策定に向けて

キャリア教育プログラムは、改めてゼロから作る必要はありません。なぜなら、すでに授業や行事等で行っている教育活動の多くが、キャリア教育とつながっていたり、キャリア教育そのものだったりするからです。しかし、活動の実施時期や実施学年が適切でなかったり、他の行事との関連性や実施の目的等があいまいになっていたりするケースがあるかもしれません。

今、行っている活動を、各校のキャリア教育として再構築するためには、教職員間の共通理解が何よりも大切です。キャリア教育プログラムは一人で作る性質のものではありません。分掌会議や教科会等の小グループで、互いに意思疎通を図りながら積み上げて、教職員全体で確認した上で展開してください。

どこから手を付けたらいいかと悩んでいる先生は、ぜひ読んでください。

プログラムの策定に向けて

ここに示した方法や順序等は、あくまで参考例です。各校で、最も効果的と思われる順序・方法で進めてください。

① ②

各校の教育方針や「学校経営の改革方針」を参考にしたり、運営委員会や教務委員会等の代表者会議で審議したりした後に、職員会議で共有する方法があります。

◆冊子のP.5 から P.6 を参照してください。

- ① 将来の姿
- ② キャリア教育をとおして身に付けたい力
- ③ 入学前の働きかけ
- ④ コアプログラム
- ⑤ キャリア教育の観点で取り込む諸活動
- ⑥ キャリア教育の観点から見た教科のねらい
- ⑦ 生徒への関わりから見た分掌の取組
- ⑧ キャリア教育の観点から見た部活動のねらい
- ⑨ 卒業後への接続

① ③ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

この6点は、分掌や教科、年齢や教員歴に関係なく誰もが書くことができる項目となっています。

ここから始めると、取り組みやすくなります。

準備段階として、P.15の「プログラム策定のための準備シート」に取り組んでください。

個々の教員が準備シートを完成させた段階で、少人数での話し合いが可能になります。他の教員の意見を広く吸い上げる柔軟性を持つことが大切です。

※経験豊富な教員は、他校で勤務されていた際のキャリア教育の先進事例を、若い教員は、自身が生徒の立場で受けた印象に残るキャリア教育の事例を、それぞれ紹介しながら話し合いを進めていくと、話題に広がりや深まりが得られ、よりよいプランニングにつながります。

④ ⑤

各校の進路計画や行事予定を参考に、キャリア教育に関連のある活動の再確認を行ってください。

定例化している活動や、学年ごとのバランス等について確認します。

それぞれの活動の関連性や順番等について見直してみてください。

特に、

- 「絶対に必要な活動」
- 「必要だが見直しが必要な活動」
- 「なくしてもよい活動」

等に分類しながら話し合いをしていくと、各校におけるキャリア教育の実状と課題が明確になります。

※この話し合いで④ができあがります。その作業とあわせて⑤を見ていくと、より効果的です。

プログラム策定のための準備シート

名前		担当教科		勤務校		校目	
担当分掌		部活動					

自校のキャリアプログラム策定に向けて、普段考えていることを基に記入してみましょう。(書ける箇所から記入してください。)

自校の学校目標を踏まえて、あなたの考える「育てたい生徒像」や「生徒の将来の姿」

「育てたい生徒像」や「生徒の将来の姿」の実現に向けて、生徒に身に付けさせたい力
担当教科で、生徒のキャリア発達を促すために必要だと思うねらい

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力

自校の教育活動の中で、生徒のキャリア発達を促すために必要だと思う活動

それ以外で、必要だと思う活動

➔

担当する「分掌」や「部活動」で、生徒のキャリア発達を促すために必要だと思うねらいや活動

分掌	部活動
----	-----

キャリア教育を進めていく上で、学校の内外に目を向けた際に感じる「強み」と「弱み」

校内にある強み	校内にある弱み
校外にある強み	校外にある弱み

このシートをもとに、分掌会議や教科会等で、自校のキャリア教育について話をしてみましょう。

三重県版キャリア教育プログラムシート

三重県立 高等学校 (課程) キャリア教育プログラム

将来の姿

将来の姿

キャリア教育をとおして身に付けたい力

学力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力

入学前の働きかけ

キャリア教育の観点で取り組む活動

1年	
2年	
3年	

コアプログラム

1年	4月～7月	
	夏休み	
	9月～12月	
	冬休み	
2年	4月～7月	
	夏休み	
	9月～12月	
	冬休み	
3年	4月～7月	
	夏休み	
	9月～12月	
	冬休み	
	1月～3月	

キャリア教育の観点から見た教科のねらい

学	力	ねらい
学	力	基礎的・基本的な知識・技能 → 思考力・判断力・表現力 → 学習意欲 → 専門的な知識・技能
		人間関係形成・社会形成能力
		自己理解・自己管理能力
		課題対応能力
	キャリアプランニング能力	

手法の例
アクティブ
ラーニング

生徒への関わりから見た分掌の取組

キャリア教育の観点から見た部活動のねらい

卒業後への接続

将来の姿

将来の姿

キャリア教育をとおして身に付けたい力

学力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力

入学前の働きかけ

キャリア教育の観点で
取り組む種活動

1年	
1年	
1年	
1年	
2年	
2年	
2年	
2年	
3年	
3年	
3年	
3年	
4年	
4年	
4年	
4年	

コアプログラム

1年	4月1-7月	
1年	夏休み	
1年	9月1-12月	
1年	冬休み	
1年	1月1-3月	
2年	4月1-7月	
2年	夏休み	
2年	9月1-12月	
2年	冬休み	
2年	1月1-3月	
3年	4月1-7月	
3年	夏休み	
3年	9月1-12月	
3年	冬休み	
3年	1月1-3月	
4年	4月1-7月	
4年	夏休み	
4年	9月1-12月	
4年	冬休み	
4年	1月1-3月	

キャリア教育の観点から見た教科のねらい

学 力	基礎的・基本的な知識・技能	手法の例 アクティブ ラーニング
	思考力・判断力・表現力	
	学習意欲	
	専門的な知識・技能	
人 間 関 係 形 成 ・ 社 会 形 成 能 力		
自 己 理 解 ・ 自 己 管 理 能 力		
課 題 対 応 能 力		
キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力		
生徒への関わりから見た分掌の取組		
キャリア教育の観点から見た部活動のねらい		

卒業後への接続

作成協力委員 ※所属は平成26年3月1日現在

赤沼 寛子 三重県立飯野高等学校

鈴木 幹治 三重県立伊賀白鳳高等学校

西村 幸三 三重県立いなへ総合学園高等学校

森 多恵 三重県立桑名北高等学校

井上 和也 三重県立四日市中央工業高等学校

寺村 善樹 三重県立松阪高等学校

林 仁大 三重県立津高等学校

(敬称略 五十音順)

三重県教育委員会事務局 高校教育課キャリア教育班
〒514-8570 三重県津市広明町13番地
TEL:059-224-2913 FAX:059-224-3023

みえの学力向上県民運動

学校・家庭・地域の
教育力を高めよう!

